

太陽の子

2016年 10月 No.157

秋の号

発行

日立市助川町5-14-8

TEL(23)2620 FAX(33)9150

ホームページ <http://www.taiyonoie.com>

Eメール npo@taiyonoie.com

NPO法人 日立太陽の家

日立重症心身障害児(者)を守る会

日立太陽の家支える会



日立重症心身障害児(者)を守る会創立50周年を記念した感謝のつどいが日立市太陽の家で開催されました。たくさんの人の思いが詰まった心温まる時間を過ごすことができました。

理念を明日につないで

全国重症心身障害児(者)を守る会

関東・甲信越ブロック長 岩城 節子

さる7月9日、貴会創立50周年のお祝いに北浦会長の祝辞を携えて、小高い丘に建つ「太陽の家」に伺いました。太陽の家のみなさんと職員の方々の爽やかで明るい笑顔が私を迎えてくださいました。

貴会の50年に及ぶ歴史は、全国守る会と共に歩まれたことをDVD「おんもに出そう」を拝見して納得しました。そのDVDは、重症児者のいのちと幸せな生活を守るための活動のようすをしっかりと映し出しておりました。

全国守る会創立時、「障害の重いものには大切な税金は使えません」そんな風潮だった社会に対して「最も弱いものを切り捨てることは、必ず次に弱いものを切り捨て、決して良い社会になりません」と訴えて50年、自分の意思を回りに伝えられない重症児者に代わって、社会に共感を得ながら地道な運動を続けた守る会が、今日の重症児施策を反映させたといっても過言ではないはず。お陰をもちまして今、重症児者は地域で生きがいを感じて幸せな生活を送っております。

先日、Y施設で障害の重い方が殺傷される事件がありました。これほど残忍で恐ろしい思いに駆られたことはありません。決して許すことの出来ない、繰り返させてはならないことです。いつも私たち親は、子どもたちのかけがえない命を身を挺して守ってきました。これからも、重症心身障害の理解、重症児者の真摯に生きる姿をそのままに守る会の理念を一緒に明日に繋ぎ伝えてまいりましょう。

風の家へ 体験入所

ひまわり学園 赤津陽子

ひまわり学園の利用者さんの平均年齢は約34歳。これからのことを心配しつつもなかなか短期入所先が決まらない、契約していても宿泊経験のない利用者さんが多数います。

そこで、NPO法人太陽の家では、利用者さんのご家族等に緊急的な事態が生じたときへの対応として、課題対応事業「緊急一時保護」を今年度、風の家で実施することにしました。

しかし、短期入所の経験がなく、不安な状態で風の家の一時保護を受け入れることが難しい利用者さんも出てくる可能性があるため、しいの木学園・ひまわり学園の利用者さんを対象に体験入所を実施することになりました。

先頭をきって、しいの木学園が7月29日に第一回目の体験入所を行いました。次はひまわり学園です。

さて、ひまわり学園の利用者さんは初めての場所に納得して、スムーズに入る事ができるか、慣れない場所での食事が摂れるか、不安と緊張で布団に入ることができるか等々、入所にあたって心配されることが多数あげられました。

そこで、事前にできることとして、宿泊先の風の家の協力のもと、風の家庭学を行いました。そこには我が家と変わらない家庭的なお風呂があり、窓から見える眺めの良い景色は利用者さんの心を驚かし、和室の部屋の気持ちの良い畳に吸い寄せられるかのようにゴロンと寝転がる利用者さんも。緊張しながら風の家に入っていた表情は一転、いつの間にかリラックスして、ひまわり学園にいる時のような少々緊張した表情の利用者さんも、仲間や支援員と一

緒という事で最後まで皆と行動を共にできました。

そして、いよいよ本番。

ひまわり学園の風の家庭学入所の第一回目を8月26日(金)〜27日(土)に利用者さん3名と支援員2名で実施しました。今後も随時行っていきます。

緊急時は、常時風の家を利用して利用者と一緒に入所します。ひまわり学園の利用者さんも体験入所等で色々経験していくと共に、私たち職員も緊急時の対応への意識をしっかりと持って支援に携わっていきたいと思います。



職員リレー

私を支えてくれるもの

しいの木学園 木工班担当支援員

横田平道

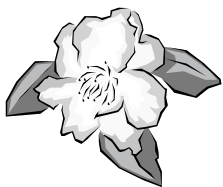
私は良い作業環境をつくらうとする時、作業の進め方に注意が必要だと思っている。効率を重視し、出来る人出来る事だけをさせるのはあまりに乱暴で進歩を感じる事が出来ない。その様な進め方では、何をすべきかを理解出来ない人が必ず出てしまう。

支援員の役割は、苦手意識を持たぬよう共に考え、丁寧に作業をする事。一つひとつの作業をやり遂げ、共に喜び、一人ひとりの持つ力を見出そうとする目を持つとする事に尽きると思う。

いろいろな良い種が有るなら、種に合った土を探し丁寧に育てれば良い。必要な時間が経てば、自然に芽吹き、花を咲かせる。芽吹きの時を合わせようとする必要はなく、自然に任せれば良い。花が違えば、育つ早さも、咲く時期も違うのは当たり前だ。だからこそ、個性的に輝ける

のだと思っている。後は、必要な時に水を与え、成長を阻害する雑草を引いたり、最小限の肥料を与えたりするだけだ。

遅く育った花は種を落とし、永遠に咲き続ける可能性が有る。その時々に見映えだけを考えて花を撒いても、綺麗な花はその時だけで、根のない花はやがて色褪せ枯れてしまう。今の木工班はすべての花がしっかりと根付き、花を咲かせ、調和している状態。それぞれに輝きを放った時期は違ったが、私は一年中綺麗な花に囲まれている。幸せな事だ。ありがとう。



日立守る会だより

日立重症心身障害児（者）を守る会

創立五十周年

記念事業を終えて

佐藤 芳 昭

去る七月九日（土）創立五十周年事業の最終行事としての式典と感謝のつどいを日立市太陽の家で行い、五十周年の一連の事業を終了することが出来ました。実行委員として約二年間に亘り、骨身を惜しまず、この事業に関わりを持って下さった守る会OBの方々には深く感謝をしたいと思います。と思っています。

この一連の事業で強く感じた事です、五十周年の活動して来た記録写真の収集です。記念誌を作る上で活動の記録（文字表現したもの）は残っていました、その時々写真がなく、これを集めるのに会員個人の手を煩わせたり、特に太陽の家の職員の方々には大変なご苦労をお掛けしました。何事にも

言える事です、目に訴えるものとしては写真が一番、それに説明文を加えれば申し分ないことで、その点では写真の記録が少なかつたと感じております。

従ってこれからは、年度毎に記録写真を文字と一緒に残すような事を会として考えていく必要があると感じました。今後守る会の活動記録を次の世代に伝えていくためにも是非そのような仕組み作りが重要であると思います。

次に記念式典と感謝のつどいの行事ではNPO法人である日立太陽の家の職員方には大変お世話になりました。日立守る会はNPO法人日立太陽の家と常に一心同体で活動していると思っておりますが、今回は特にそれを感じました。

職員はボランティアの立場でありながら自分達の行事と捉えて行事の成功に尽力していただいた事であり、謹んで敬意を表したいと思います。当日の準備から終了までの一連の内容についての微に入り細にわたったの助言と協力があってこそ成功であり、如何に守る会との関係が深いか、あまり他所では見られない姿であり、守る会としても大いに自負出来ることです。これもひとえに職員の物事に対する姿勢と諸先輩が築いてくれた伝統であり、感謝あるのみです。

当日日立守る会もこれから又長い道のりを歩んでいかねばなりません、これまでの五十年を踏まえ、これからの五十年に向けてスクラムを組んで頑張っていきたいと思うのです。

最後になりますが、これまで理解と愛を下さった日立市はもとより関係機関に対し、改めて深く感謝申し上げます。誠にありがとうございます。

一緒に歩む

前田 勝子

おんもに出そうというビデオを何年前前に見たことがあった。母親の着衣の様子を見て、五十年前我が子のために、奔走した和服姿で歴史を感じる。

私の子供が生まれる時、さい帯が長すぎ、たすき状にからまり酸素不足で脳性小児麻痺という病名がつけられた。要するにここから障害児が始まった。その当時は障害児（者）が少なかつたのか？その辺は分からないが、こういう障害を持った人を見るのが珍しかったのだらう、ジロジロ見たり、ヒソヒソしゃべったりが普通の光景だった。

子供が小さいうち隠せるう

ちは隠そうと、おんぶした時等はネンネコ半天という丈の長い物を着て、足が出るようになって隠しきれずバギーに切り替え、少しずつ表に連れ出すようになった。

小さい子供達がジーツと見ている「この人年はいくつなの？」足が細いので「おばちゃん、この人ごはん食べているの？」なんて聞かれた事もあって、やさしく病気の説明をしてあげたりした事もあった。不思議に思ってた事もあるが、健常児者も当たり前前の質問だと受けとめた。

親の考えを変え、なるべくいろいろな人と接触し、世の中を広く大きく見せてやりたいと、子供と一緒に歩みたいと思う。

仕事を支える趣味について

利用者兄 今 井 悟 史

病院で介護職として働いて十一年目になります。働き始めはミス等をして落ち込んでいた時も良くありましたが、

職場の先輩方に相談して良かった。優しい相談相手がいて良かったなと思えました。

(次頁へ)



